

花川病院 リハビリテーション部 作業療法士

合田 沙菜恵

功 績 患者さんのADL向上のために福祉用具の活用をOT部門で取り組んでおり、そのリーダーとして福祉用具を考案し活用をすすめていた。今回その中の一つをコンテストに応募して最優秀賞を受賞した功績。

推 薦 者 リハビリテーション部 岡本 康世部長

推 薦 理 由 患者さんのために日々福祉用具について情報収集だけでなく、自ら考案して作成して使用してもらう活動をしており、患者さんのADL自立度の向上だけでなく、当院で有効に活用できているものを院外にも情報発信する目的でコンテストに応募して、それが認められて最優秀賞を受賞。この件がアウトブランディングとして北海道医療新聞に掲載されたことは理事長賞にあたると思い推薦を致します。

内 容

当院のOT部門として患者さんのADL自立度の向上のために福祉用具の活用に取り組んでおり、既存の物の情報収集や活用にとどまらず、当院の環境や患者さんに合わせて自分たちで福祉用具を考案、作成するグループがあり、そのリーダーとして活動しています。

今回は当院の多くの患者さんが歩行で使用しているストッパー（ブレーキ）付きサークルについて、レバーが固く、高齢で力が弱かったり障害によって操作が困難な場面が多いことに着目しました。簡単に作成できて、この原理を利用して軽い力でストッパーを操作できる道具を考案し、活用を開始しました。軽い力でストッパーがかけられると患者さんから好評で、現在は同タイプのサークルへの活用頻度はかなり高くなっています。

当院以外でも同じく困っている患者さんのために情報発信をしたいと考えて、ちょうど開催される予定であった北海道作業療法士会主催の自助具コンテストに応募しました。これは、自助具に造詣の深い作業療法士、既成概念にとらわれず新しい発想が期待できる養成校の作業療法学生より自助具のアイデアを募集し、会員の知見を広め、作業療法の学術活動の振興を推進することを目的としています。

コンテストでは全23作品の応募があり、見事に最優秀賞を受賞しています。

